

# 横須賀市須軽谷上の里の丸石道祖神

瀬川 渉

Maruishi Dosojin of Sugaruya, Yokosuka City

SEGAWA Wataru

This paper describes the Maruishi Dosojin in Sugaruya, Yokosuka City. Maruishi Dosojin is a spherical roadside god. It is said that there are few Dosojin in the Miura Peninsula, but there is a possibility that there are many Dosojin using natural stones. In the future, it is necessary to continue the investigation while considering the possibility.

## はじめに

神奈川県における道祖神の悉皆調査は、1972年度から1979年度までの期間をかけて行われ、『神奈川県の道祖神調査報告書』にまとめられている。そこでは、当然ながら横須賀市や三浦市、葉山町や逗子市など三浦半島を構成する市町村の調査結果が記載されている。小稿では、上記の悉皆調査などの記述と横須賀市内の丸石道祖神の事例を紹介し、詳細が不明であった横須賀市須軽谷上の里の丸石道祖神について述べる。

## 1. 県内の道祖神

神奈川県内の道祖神を悉皆調査したのは、先に挙げた『神奈川県の道祖神調査報告書』(以下、「悉皆調査」)だけである。その他の調査として、各市町村の博物館・資料館・文化財担当部署がそれぞれの地域について調べた報告がある。横須賀市においても同様ではあるが、県内でも早くから博物館を設置した自治体ではあるが、道祖神に関する成果は少ない。

---

原稿受付 2021年12月22日 横須賀市 博物館業績 第771号

Key Word : Roadside god Childbirth prayer Spherical concretions

キーワード：道祖神 子宝信仰 球状コンクリーション

表1 各市町村の道祖神数

厚木市	368	山北町	93	鎌倉市	28
小田原市	311	横浜市	85	開成町	25
秦野市	221	大磯町	72	真鶴町	24
伊勢原市	196	湯河原町	70	清川村	21
相模原市	90	綾瀬市	64	大和市	16
城山町	5	大井町	64	三浦市	13
津久井町	42	中井町	63	横須賀市	9
相模湖町	15	川崎市	60	逗子市	9
藤野町	26	愛川町	54	葉山町	3
藤沢市	138	松田町	53		
海老名市	127	寒川町	44		
南足柄市	123	座間市	35		
平塚市	112	二宮町	32		
茅ヶ崎市	99	箱根町	32		

※城山町、津久井町、相模湖町、藤野町は、「悉皆調査」のあと、相模原市と合併した

「悉皆調査」によって、県内各地の道祖神の所在はすべてではないが分かっている。表1は、「悉皆調査」で判明した各市町村の道祖神数を示したものである。

この表からも分かるとおり、県内各地と比べて三浦半島の道祖神は少ない。それに比べ、県央部と県西部は多い傾向にある。もちろん、近世近代の人口や面積も考慮する必要はあるが、三浦半島が少數であることは際立っている。この要因として、「悉皆調査」では猿田彦の石碑がその代替をしていると分析している。

平塚市博物館の1999年度秋期特別展図録『相模の道祖神』では、「悉皆調査」の内容を踏まえた独自の調査によって、旧相模国の道祖神を紹介している。そこでは、絶対数が多い県西部には双体道祖神が多いこと、そして伊豆型单坐像と相模型双体像との地域的な境界線を提示している。また、旧相模国三浦郡と津久井郡には、五輪石や自然石の祭場が多いことを述べている。さらに、小稿と関連する部分で言えば、小正月の火祭りで道祖神の御神体を焼く地域分布についても触れ、旧相模国の全域で見られるが高座郡で多いこと、三浦郡では五輪石や陰陽石を焼くことが多いことが示されている。

また、近年では相模民俗学会の高橋一公が小田原市内の道祖神を調査しており、丸石道祖神についても述べている<sup>1</sup>（高橋 2020）。

## 2. 三浦半島の丸石道祖神

神奈川県内での三浦半島の道祖神の特徴は、「悉皆調査」等で明らかになっている。しかし、具体的な事例報告は少ない。

例えば、神奈川県が横須賀市佐島を調査した際の年中行事の項では、以下の報告が出ている（神奈川県教育委員会 1971）。

＜オンベ焼き＞4日の朝から、四部落競って子供たちの手で「サイノカミ」づくりがはじまる。それぞれリーダーの采配で、まず山からあらかじめえらんでおいた大きい松の木（神木）を5本選び、部落ごとに別々の浜辺へまずこれを中心の柱として立てる。（稻荷社裏の五輪塔の石を土台にして神木を立てていた部落もあり、現在焼けこげた石が残されている。）これが、「サイノカミサマ」である。

また、同時期の神奈川県立博物館の調査では、横須賀市長沢の事例が報告されている（神奈川県立博物館 1971）。

昔は早朝、子供が宿から出てサイト焼きをした。子どもの親方が堀（田や川）の水で顔を洗って垢離をとったことにした。燃える火の中へ集めてある五輪石（20ヶほど）をぶち込んだ。この石をサイノ神という。この五輪石は火の中で二つに割れてもう一つの同じ五輪石ができることがあると言われており、このことを石が子を産むといった。また、この石は長い間には小さなのが大きく成長することもあると言われている。

さらに、筆者が森光司氏（横須賀市津久井牛込生まれ）から以下の内容を聞き取ることができた（横須賀市自然・人文博物館 2017）。

4日になると、7日のおんべ焼きのため、小学生たちが正月飾りを各家から集めてまわった。その際、お小遣いをもらえた。牛込では小学校の集団に呼び名はついていなかった。6日の夜までにおんべを組み上げ6日の晩は倉庫見張りをして過ごした。ただし、これは牛込の下集落だけで、上集落では見張りはしていないかった。7日は日の出前におんべに火をつけた。火をつける前に田んぼ

の水で濡らしたサンマタを地面にたたきつけながら「いまおんべ燃すぞ、じんじばんば飛び起きろ」と叫ぶ。おんべ焼きでは正月飾りだけでなく、コウメイシ（子産石のこと）も一緒に焼き、おんべ焼きが終わった後、コウメイシを田んぼに放り投げ、割れたら子どもが産まれるといって縁起が良いこととされていた。光司氏がかかわったおんべ焼きでは1回しか割れなかった。コウメイシは、普段から見つけたら集めておいた。

以上のほかに、辻井善彌や『新横須賀市史 別編民俗』に同様の報告が見られる。「悉皆調査」等で指摘されていた自然石を道祖神として祀る事例が横須賀市内では確かにあった。そこで、横須賀市須軽谷上の里のドウロクジンについての調査報告を以下で述べる。

### 3. 須軽谷上の里のドウロクジン

横須賀市須軽谷は、横須賀市の中央南端に位置し、三浦市との境もある。面積は1.156 km<sup>2</sup>、222世帯471人が住んでいる<sup>2</sup>。須軽谷は宮の里、上の里、下の里の3つの集落から構成されており、小稿で取り上げるのは、上の里である。「悉皆調査」では、上の里は以下のように記述されている。

【名称】 サイト

【行う場所】 道の辻

【宿づくり】 焼く場所の近くの家に泊まった

【材料集め】 松竹笹を山より集めたが、松くい虫にやられて松もなくなった

【飾り集め】 三又で地を叩きながら里内を回り集めた

【賽銭】 100円～200円

【点火】 7日朝

【焼き方】 大人が手伝って前の日にやぐらを組み、消防の大人が見張りをして焼いた

【餅焼とご利益】 角餅を焼き食べると風邪をひかないと言われた

【残金の処分】 残金で菓子を買い、世話になった大人には煙草を返した

【中止の理由】 材料不足のためと、火災の危険があったため

【いつ頃やめたか】 昨年（昭和48年）

上の里に調査に入ったのは、2021年2月14日と同年2月18日である。2月14日の調査では、まず道祖神の場所を確認するため現地に赴いた。運よく道祖神を管理していたF家に話を聞くことができた。そこでは、道祖神は丸石であること、平成にな

ってからはおんべ焼きをしていないので現物があるかどうかわからないこと、を確認した。また、丸石道祖神があるはずの場所を案内していただいたが、現物を確認できなかった。そこで、後日、現地を掘って探す了承を得て、14日は帰路についた。

2月18日はスコップを持参し、掘り出すところから始め、半分に割れた丸石と破片を見つけ出した。さらに、F家の当主に以下の内容を聞き取ることができた。項目は、「悉皆調査」に合わせたが、初出の情報もあった。

【名称】おんべ

【点火】七草粥の頃、早朝に田んぼで燃やした

【いつ頃やめたか】平成に入ったころに上の里ではやめてしまった。下の里では続けている

【中止の理由】子どもが少なくなった

【飾り集め】当日は三叉のしめ飾りを持って「おんびをもやすから起きらっしゃい」と言って集落を廻った。門松や正月飾りなどを全軒分集めたので、2つ立てた時もあった

【他の集落との関係】燃やすのは競争で、周辺の集落よりも早く燃やせるように急いだ

【ドウロクジン】ドウロクジンは4つほどあった(なくなったり、増えたりしていた)。神様であるドウロクジンを燃やしたから、あとでお神酒をかけた

以上が2月18日に聞き取りをした内容である。まず、点火は1月7日で同じであった。しかし、場所が「悉皆調査」では道の辻であったのに対し、今回の調査では田んぼであった。さらに大きな違いとして中止の時期が挙げられる。「悉皆調査」では、昭和48年にやめてしまったとあるが、今回の調査では平成に入ったころとなっている。場所と中止時期の違いを検討すると、辻で点火していたものが昭和48年に中止になり、いつしか田んぼで復活した。田んぼであれば火災の心配も軽減される。しかし、平成に入ったころに子どもの減少により再度中止してしまった、と考えられる。そして、今回の調査で明らかになったのは、丸石道祖神であるドウロクジンの存在が明らかになったことである。同じドウロクジンの存在は、「悉皆調査」で隣接する下の里で確認されていた。今回の調査では、現物のドウロクジンの寸法も図ることができた(写真参照)。ドウロクジンはほぼ球体であるが半分に割れていたもの(写真ドウロクジン1)や半分だけのもの(写真ドウロクジン4)、破片だけ(写真ドウロクジン2・3)しか残っていなかったもの、計4つはあったことがうかがえる。ドウロクジンには、焦げた跡があり火の中に入れられたことがわかる。このドウロクジンは、石の形

状や質感からも球状コンクリーションであると推察できる。球状コンクリーションとは、地層の中にある周りの岩石より固い岩石のことで、地下水に含まれる化学成分によって固められたものである。このことも、小稿で述べておきたい。

## 小括

小稿では、神奈川県内の道祖神調査や横須賀市内の事例報告等を紹介し、三浦半島では典型的な道祖神碑が少なく、自然石の道祖神が多いと述べた。具体例として、横須賀市須軽谷上の里のドウロクジンを取り上げた。市内の他の丸石道祖神と同じく小正月の火祭りと関係し、火の中に投げ入れることも共通していた。また、横須賀市長沢と津久井では、子宝信仰とも結びついていた。横須賀市久留和の「子産石」もコンクリーションであり、川や海の流れで角が取れた石よりも球状になるのがコンクリーションの特徴である。三浦半島各地でコンクリーションが出てくるわけではないので、長沢や津久井の丸石道祖神は、久留和の岸壁などに露頭していた球状コンクリーションを運び入れたと考えられる。球状コンクリーションに神秘性を感じ、道祖神や五輪塔に利用した可能性もあり、同様の子宝信仰と球状コンクリーションが結びついた例は、静岡県牧之原市などで見られる。

今後は、市内の丸石道祖神についての事例をさらに集め、球状コンクリーションと子宝信仰までを射程に入れた調査研究を続けて行きたい。

## 付記

小稿の横須賀市須軽谷上の里の調査について、須軽谷のみなさまのご協力に感謝いたします。また、2月18日の調査には、平塚市博物館に就職する直前の福田麻友子氏に同行していただきました。御礼申し上げます。

## 引用・参考文献表

高橋一公「小田原市の道祖神の場と碑に関する考察」『民俗学論叢』相模民俗学会2020

神奈川県教育委員会『相模湾漁撈習俗調査報告書』1971 P103

神奈川県立博物館『神奈川県民俗調査報告4 三浦半島の民俗（I）』1971 P91

横須賀市博物館研究報告（人文科学）62号 2017年 P71

辻井善彌『三浦半島の観音みち』1981年

1 高橋は三浦半島での丸石道祖神調査の必要性も述べている。

2 2021年10月1日現在 住民基本台帳登載人口



ドウロクジン 1



ドウロクジン 1



ドウロクジン 2



ドウロクジン 2



ドウロクジン 3



ドウロクジン 3



ドウロクジン 4



ドウロクジンが置かれていた場所